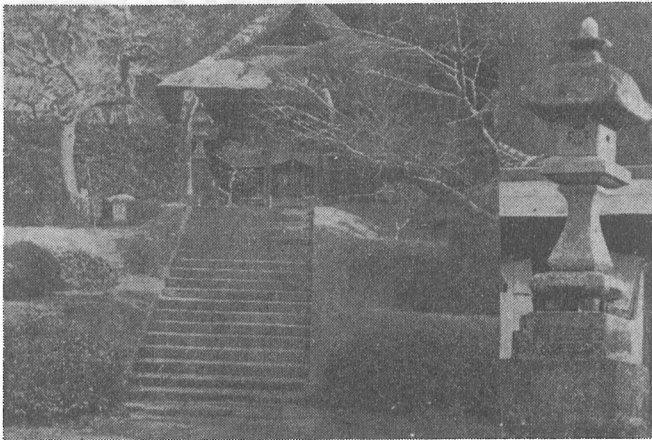


# 横芝の碑 (その六)

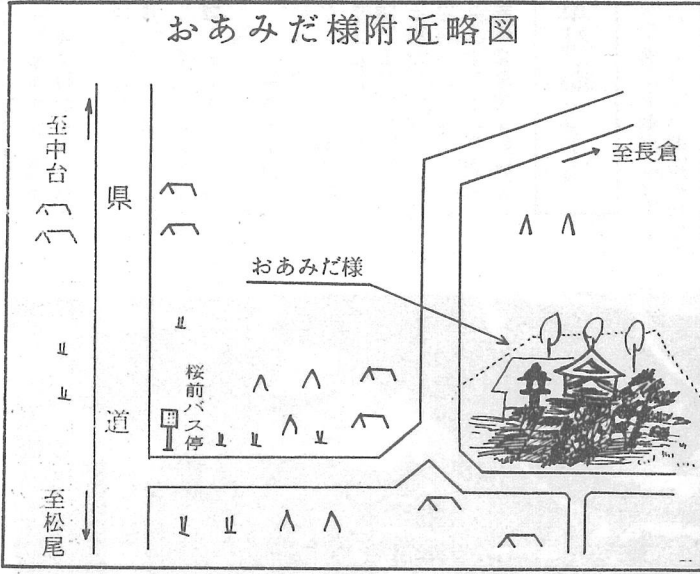
## 安産の守り神

〈おあみだ様の石段と灯籠〉

「私達の所は横芝のチベツトですよ」、連山の小川文雄さんは謙遜していました。桜前の県道から約七百メートル、姥山の集落から五百メートル、うっ蒼とした杉林に囲まれ、沿道には竹林も見え小鳥のさえずりも此処彼処、時折は栗鼠の枝渡りも見られる、という本当に静かな集落で俗に阿弥陀様と呼ぶ寺を中心にした約十八戸の民家は殆んどが農家で、それぞれ豊かな生活を営んでいます。どの家にもテレビのアンテナが建ち中にはカラーやFM用アンテナも数多く見え、庭先に



さて、お阿弥陀様は正しくは宝光山萬福寺と呼び安産に御利益があるという事で昔から女性の信仰が多いとか、表通に面した三十坪程の広場の奥には、美しい横線を引いた石段が整然と重なり、その上には形のよい石灯籠が手入れの行き届いた枝振りの松や梅の古木等に囲まれ、由緒あり気な姿を見せています。この石段は約六十年前に寄進されたものですが、その寄進者は山武、海上、香取、匠造、印旛の各郡にわたり、完成後一度も土崩れや石の緩みも出ない、それは信者の魂がこもっているからだ、といわれています。又石灯籠は正十三年頃の献納だといいますが台座には安産講と太字で刻まれているのが目につきます。これは万福寺の信者の中で特に安産による御利益を得た山武郡や八街町等の人々の寄進によるものだという事です。



亭々として聳え立つ杉や檜の森を背景にひっそりと浮かび上る様に静まりかえる石段と石灯籠のたたずまいを眺めていると何か瞑想の境に引込まれるような気がして来ます。萬福寺の開基は詳かでないが附近の堂山という所にあった萬福寺のお堂を解体した時棟木に天明三年と墨書されていたというのですからそれより前であるという事は間違いないでしょう。何はともあれ思い掛けない所に見出した美しい石段と珍らしい安産礼詣の献灯を紹介して見ました。写真、石段の左上に安産講寄進の灯籠が姿を見せています。(右の拡大写真を見ますと台座の安産講という文字が読みとれます。)

(給食センター  
小沢所長寄稿)

### 国保運営委員会かわる

国民健康保険運営協議会の委員が任期満了したため、一月一日付で新に次の方々を委嘱されました。この協議会は、国保事業の運営に関する重要事項を審議する町長の諮問機関であります。構成は、被保険者の代表国民健康保険医、または国民健康保険薬剤師の代表、公益代表のそれぞれ三名づつで九名の委員で構成されています。新しく委員になられた方は

- |     |               |
|-----|---------------|
| 会長  | 鈴木 繁(公益代表)    |
| 副会長 | 伊藤右伸(〃)       |
| 委員  | 伊東重雄(〃)       |
|     | 鈴木 寛(被保険者代表)  |
|     | 海保豊蔵(〃)       |
|     | 早川幸三(〃)       |
|     | 長野康己(国民健康保険医) |
|     | 吉岡 登(薬剤師代表)   |
|     | 中村 淳(〃)       |

火災の多いシーズンです

## なれた火に 新たな注意

